

デジタルアーカイブ専攻設置記念講演会「沖縄の伝統芸能」について

加治工 尚子・谷 里佐

1. デジタルアーカイブ専攻設置記念講演会

2018年4月、岐阜女子大学文化創造学部に「デジタルアーカイブ専攻」を設置した。

デジタルアーカイブは、図書館・博物館はもちろん、広く、社会で必要とされるものと認識され、政府は、法整備の検討をはじめている。

岐阜女子大学は、デジタルアーカイブがまだ認知されていない2000年頃から、全国各地の地域文化や教育資料のデジタルアーカイブに関する研究を進め、2017年には、東京大学等と協力し、「デジタルアーカイブ学会」を設立した。

また、文部科学省には、こうした本学の教育研究の成果が高く評価され、文部科学省私立大学研究ブランディング事業「地域資料デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業」5年継続事業に選定されている。

このような社会情勢のなか、それまでの文化創造学専攻アーカイブ専修から、日本で唯一のデジタルアーカイブを専門に教育する「デジタルアーカイブ専攻」を設置した。

その記念として、2019年2月11日、本研究所では、本学特任教授（当時）の大城學氏を講師に迎え「受け継がれる沖縄のこころ 沖縄の芸能文化」と題した記念講演を行った。

沖縄県では、各地に郷土芸能が息づき、現在でも地域の保存会などによる活発な活動がみられる。2010年にユネスコ無形文化遺産リストに登録された「組踊」をはじめ、琉球古典音楽や琉球舞踊、各地の民俗芸能なども盛んであり、活躍する芸能関係者も多く「芸能文化の宝庫」となっている。また、2019年は組踊が初めて上演されてから300年の記念すべき年にあたり、県内外で多くのイベントが予定されている。このような中、沖縄の芸能文化の研究者であり、国立劇場おきなわの立ち上げや沖縄県文化芸術振興審議会会長などの職責を担い、長年にわたり沖縄県の芸術振興に携わってこられた大城學氏に、本学デジタルアーカイブ専攻の設置記念講演をお願いした次第である。

なお、記念講演は、芸能文化に関心のある方、沖縄への修学旅行等で指導される方、デジタルアーカイブに携わる方などへ参加を呼び掛けて実施した。

当日は、定員80名のところ、予想を大きく上回る180名もの人々が参加され、大城先生の芸能文化に関するお話しをはじめ、組踊の映像などの鑑賞も行い、熱気あふれるものとなった。

デジタルアーカイブ専攻設置記念講演会 実施概要

主題：岐阜女子大学 特別公演 “受け継がれる沖縄のこころ” 沖縄の芸能文化

講師：大城 學 氏（岐阜女子大学 特任教授）

期日：2019年2月11日

場所：岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究所

主催：岐阜女子大学

参加者数：180名

2. 講演レジュメ

I 民俗芸能

1. **民俗舞踊**：共同体の祭祀儀礼の場で踊られる〈祭祀舞踊〉、集団で踊られることが多い。
2. **狂言**：共同体の祭祀儀礼の場で演じられる。

II 冠船芸能（琉球王国時代の芸能）

1. 琉球王国（略年表）

(1) 1372年	琉球(中山)は、当時中国を統一していた明国とはじめて君臣の関係を結んだ。1380年に南山、1383年に北山が明国へ進貢した。	・1368年 元滅亡し、明を建国
(2) 1429年	尚巴志と称する人物によって王国がつけられた。(1406年に中山、1426年に北山、1429年に南山を滅ぼす。) 首都を首里に置き、一人の国王によって統治される独立国家が誕生した。	・1404年 初めての冊封使、来琉(武寧の冊封の時) * 琉球は明国との朝貢・冊封体制を確立する ↓ 以後、500年にわたる冊封・進貢の開始
(3) 1458年	「万国津梁の鐘」を首里城正殿にかける。鐘の銘文には琉球王国の海外交易の隆盛・制海の気概が的確に表現されている。	* この頃の琉球王国は、中国をはじめ日本・朝鮮・東アジア諸国に貿易船を派遣し、貿易国家として繁栄
(4) 1609年	薩摩侵入。薩摩軍3千人が琉球に侵入。尚寧王や重臣たちを連行して琉球を支配下に置く。	・1666年 羽地朝秀が摂政に就く * 士族層に対する諸芸の奨励
(5) 1879年	琉球処分。明治政府、琉球藩を廃し沖縄県を置く。軍隊・警察を動員して首里城の明け渡しと尚泰王の東京移住を強制。450年に及んだ琉球王国は崩壊した。	・1866年 最後の冊封使、来琉 * 1404年～1866年の間に23回の冊封が行われた

2. 冊封使（さっぽうし、さくほうし）

- (1) 中国と君臣の関係を結んだ琉球王国では、国王の代替わりごとに〈冊封〉の儀礼が行われた。冊封とは、中国(明)の皇帝が臣下の国の主に対して、汝を国王に任命するという詔勅を与えることである。そのために詔勅を携えて渡来する使者を〈冊封使〉と称した。
- (2) 新国王の即位に際し、冊封使は詔勅の他に、新国王に授ける王冠(玉冠)や被弁服も携えて来ることから、琉球では冊封使が乗って来る船のことを〈冠船〉と呼んだ(中国では封舟という)。敬称の「御」を冠して〈御冠船(おかんせん、方言:ウクワンシン)〉という。
- (3) 冠船の渡来は1404年に始まり、1866年をもって終わる。その間、23回の冊封が行われ、一度に数百人が渡来し、滞在期間は4～8か月にも及んだ。

3. 御冠船踊（冠船芸能）

- (1) 冊封使が渡来すると、前国王の論祭(弔いの儀礼)や新国王冊封の儀礼だけでなく、琉球王府では冊封使を歓待するために、以下の豪華な宴を催した。〈七宴〉と称している。

- ① 諭祭ゆさいの宴 ② 冊封さつぽうの宴 ③ 仲秋ちゅうしゅうの宴 ④ 重陽ちょうようの宴
 ⑤ 餞別せんべつの宴 ⑥ 拝辞はいじの宴 ⑦ 望舟ぼうしゅうの宴

(2) 琉球王国では、冊封使を歓待する芸能公演のために〈踊奉行〉を設け、数多くの音楽、舞踊、演劇を仕立てた。これらの芸能を総称して〈冠船踊〉あるいは〈御冠船踊〉〈冠船芸能〉という。冠船に乗って渡来した冊封使たちを歓迎し祝福するための芸能、という意味である。

4. 御冠船踊（冠船芸能）の内容

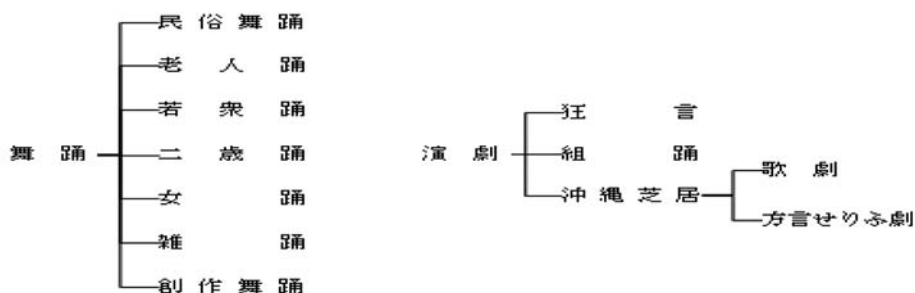
- (1) 端踊は: 老人踊(緞子衣装)、若衆踊(振袖袷衣装)、二歳踊(黒紗綾袷衣装)、女踊(紅型衣装)
 (2) 組踊: 歌舞劇(1719年 初演) (以後、組踊を中心に踊番組が編成される)
- ・琉球の国劇
 - ・首里方言の古語によるせりふを主として、音楽、舞踊で構成された歌舞劇
 - ・創作者 … 玉城 朝薫たまぐすく ちようくん(1684～1734)
 - ・朝薫の五番 … 「執心鐘入」「二童敵討」「銘苺子」「女物狂」「孝行の巻」
 - ・芸能の担い手は、士族とその子弟たち、全員男性

III 廃藩置県以後の芸能 〈1872(明治5)年 … 琉球藩 ⇒ 1879(明治12)年 … 廃藩置県、沖縄県〉

1. 雑踊: 琉球王国時代に創作され継承されてきた御冠船踊に対して、明治の中期以降に創作された舞踊を〈雑踊〉という。雑踊には、御冠船踊の雰囲気とは違って、振りや様式、衣装に新たな民衆のエネルギーがそそがれ、庶民芸能として定着した。
- ・雑踊に対して御冠船踊のことを〈古典舞踊〉と称する
 - ・師匠は冠船芸能の師匠や演者たち
⇒ 冠船芸能の伝統を継承 + 民衆のエネルギー

2. 沖縄芝居: 〈歌劇〉と〈方言せりふ劇〉に大別する。沖縄芝居の発生は、舞踊が御冠船踊から雑踊へと展開していく過程と時期が同じで、事情がかなり似ている。

3. 創作舞踊: 戦後になって創作された舞踊を〈創作舞踊〉と称する。



◇ 芸能の交流 ⇒ 芸能の広がり

冠船芸能・組踊、雑踊・沖縄芝居が、村踊の民俗芸能、さらには創作芸能に取り込まれる
 ⇒ 内容が充実し、世界に羽ばたく芸能となる

◇ 文化財指定（発展）

- 組 踊：国指定重要無形文化財、ユネスコの無形文化遺産へ記載
- 琉球舞踊：国指定重要無形文化財
- 沖縄芝居（歌劇）：沖縄県指定無形文化財

◇ まとめ 沖縄の芸能を育んだ条件

1. 四面を海に囲まれた島嶼地域で、日本本土から遠く離れた場所にあることから、日本古来の言語、民俗、文化を今日まで残すことになった。
2. 独立王国の体制を確立し、東アジア諸国との外交・交易関係を持ったことで、それらの国々から単に物質(有形のもの)だけでなく、技術や知識(無形のもの)を吸収、つまり、芸術や文化といったものまで取り入れた。
3. これらの多彩な芸術の影響を受けながら、しかし、どの国の模倣でもない独自の芸能を創りあげている。

《映像資料の概要》

組踊(くみおどり):ユネスコ無形文化遺産代表一覧に2010年11月に記載

歌舞伎や能と並ぶ国の重要無形文化財、15世紀から19世紀にかけて琉球王国が栄えていた
周辺諸国との貿易を通して独自の文化が発達

冊封使(さっぽうし):琉球国王を任命するために来た中国皇帝の使者

組踊は冊封使をもてなすための国家的な芸能として誕生

組踊の創始者:玉城 朝薫(たまぐすく ちょうくん:1684-1734:「二童敵討」「執心鐘入」「銘苺子」「女物狂」「孝行之巻」)

1719年に組踊が初めて上演された

組踊の特徴1 台詞(せりふ)の唱え方

台詞の唱え方に独特のリズムと旋律がある

登場人物の性別や身分・年齢によって唱え方が変わる

組踊の特徴2 音楽

場面の説明や登場人物の気持ちを音楽で表現する

「組踊は聴くもの」とも言われている

組踊の特徴3 舞うような動き

組踊の体の動かし方は琉球舞踊の動きが基本になっている

組踊の特徴4 衣装・小道具など

身分の高い男性は豪華な衣装、少年は若衆(わかしゅ)と呼ばれており華やかな振袖を着る

女性は紅型の打ち掛け、笠と杖は旅の途中である印

組踊の小道具 きやうちやく(ちょうちやく):身分の高い人が野外で座るイス

「執心鐘入」の般若の面、つり鐘、大蛇

(参考 DVD : [著作] 財団法人国立劇場おきなわ運営財団、[制作] RBCビジョン)

平成 31 年 1 月

各位

岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻

岐阜女子大学

デジタルアーカイブ専攻設置記念講演会のご案内

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、岐阜女子大学は、日本で唯一のデジタルアーカイブを専門に教育する「デジタルアーカイブ専攻」を設置いたしました。

デジタルアーカイブは、図書館・博物館はもちろん、広く、社会で必要とされるものと認識され、政府は、法整備の検討もはじめています。本学は、デジタルアーカイブがまだ認知されていない 2000 年頃から、全国各地の地域文化や教育資料のデジタルアーカイブに関する研究を進めており、デジタルアーカイブ教育研究への社会の要請を受け、本専攻の設置に至りました。

また、本学は、沖縄県に沖縄サテライト校（沖縄女子短期大学内）を設置しており、多くの沖縄の学生さんたちが学び、沖縄の文化に関するデジタルアーカイブ活動も進めています。とくに、毎年作成している沖縄のデジタルアーカイブを元にした冊子『沖縄おうらい』は、沖縄に修学旅行に行く高校生に提供し、毎年 1 万数千人に利用されています。

そこで、デジタルアーカイブ専攻設置記念講演として、本学と関わりが深い沖縄芸能文化をテーマに、沖縄の芸能研究の第一人者大城学先生による講演会を開催いたします。

チラシを同封させていただきますので、ご希望の方にぜひご紹介いただきたくお願い申し上げます。

岐阜女子大学 特別講演

“受け継がれる沖縄のこころ”

沖縄の芸能文化

講師

岐阜女子大学 特任教授 (前琉球大学教授)

大城 學 氏

【プロフィール】 沖縄の芸能文化の研究者。主な著作に『沖縄芸能史概論』砂子屋書房 (2000 年)、『沖縄の祭祀と民俗芸能の研究』砂子屋書房(2003 年)がある。

2002 年 財団法人国立劇場おきなわ運営財団調査養成課長
2009 年 琉球大学法文学部教授
2014 年 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団理事
2014 年 沖縄県文化芸術振興審議会会長
2016 年 文化審議会世界文化遺産・無形遺産部会・無形文化遺産特別委員会作業部会第一グループ委員



組踊 二重敵討 (沖縄女子短期大学記念館ホール)



エイサー (宜野湾市青年エイサー祭り)



アンガマ (石垣市登野城)

沖縄は、各地で郷土芸能が伝承され、現在でも地域の保存会などによる活発な活動がみられます。世界遺産に登録された「組踊」をはじめ、日本を代表する芸能も盛んです。また、活躍する芸能関係者も多く、「芸能文化の宝庫」となっています。芸能文化に関心のある方、沖縄への修学旅行等で指導される方、デジタルアーカイブの関係の方など、多くの方々のご参加をお待ちしております。

2019 年

日時

2月11日 月・祝

開場 13:00

開演 13:30~15:00

場所

岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究所

住所：岐阜市明德町 10 番地 杉山ビル 6 階

〔申込詳細〕

入場料：無料

定員：80名 (定員になりしだい締め切らせていただきます。)

申込先：岐阜女子大学 50 周年記念特別講演 受付係 Fax 058-267-5238

(1) 郵便番号, (2) 住所, (3) 氏名(フリガナ), (4) 所属 を明記のうえ、ファックスにてお送りください。

後日、受講票を送付いたします。

50th

GIFU WOMEN'S UNIVERSITY

華陽学園70年
岐阜女子大学50周年記念

*なお、岐阜女子大学ではデジタルアーカイブ「沖縄おらい」を開発し、これまでに約 10 万冊が高校生の修学旅行等にご利用いただいております。当日、参加の方には「沖縄おらい」(冊子)を無料進呈いたします。

主催 岐阜女子大学